



西南学院大学・

図書館報

No. 63

1975年1月31日発行

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館



読書のすすめ

商学部教授 馬場 克三

卒業期をひかえて思うことは、やがて学窓から去ってゆく諸君が、勤めをもつようになったのもこれまで通り、書物に親しむ機会に恵まれるであろうかということである。すでに就職している先輩の諸君にときたま出会った折などに聞いてみると、口を揃えたように、読書どころではないという。

かつて東洋経済新報の主幹をなが年つとめ、のち短期間だが内閣首班ともなった石橋湛山氏は、若いころ、毎日通勤の湘南電車のなかで、ケインズ経済学をものにしたという話を聞いたことがあるが、こういうことは遠い時代の夢物語りとなったのかもしれない。たしかに、こんにちラッシュにもまれ、何回も乗りついで通勤では、新聞すらろくに読めないであろう。しかしそうした悪条件のなかで、ひそかに文庫本に目を曝らしている若者の姿を見かけることは決して珍しいことではない。かと思うと逆に、恵まれた特急の指定席などでサラリーマン風の青年が、およそ本来の読書とは縁遠い低俗な週刊誌を何冊もかかえて乗りこんでくる情景に接することもしばしばである。

ということは、読書というものは要するに、周囲の条件よりはむしろ心掛けの問題だということではないであろうか。もちろん一口に心掛けといっても、そこには工夫がなくてはならないが――。

まず心掛けの第一は、読みたいと思う本をふだん選んで買いこんでおくことである。本は書店に行けばいつでも手に入ると思いがちだが、実際、欲しいときに入手できるとはかぎらないものである。寸暇を惜しんで本を読もうと思えば、必要な本は手許においておかなくてはならない。ある友

人の話だが、彼は仕事に疲れると、会社から抜け出して近くの書店へ行き本棚の間をぶらつく。こういうときが彼にとって本を選ぶ時間なのだという。

心掛けの第二は、怠ばらないことである。ひところ私は固い装訂の本を寝台車にまで持ちこんだりしたものだが、やはり旅行にもってゆく本は小説の類がよい。これならどんな喧騒と混雑の中でも集中して読むことができる。

第三は、本との出会いである。人と人との出会いが大事のように人と本との出会いもそれに劣らず大切である。もともと出会いというものは偶然なものだが、チャンスを掴むか否かは心掛けの問題である。よい本に出合うのは人が強烈な問題意識をいだいているときである。20代のころ渇く心に水を吸いこむ思いで読んだ本が私にもある。いまそれを読みかえしてみてもそれほど感激しないのだが、しかしその本が私の歩む道を大きく変えたように思う。本の与える影響力の大きさを思うにつけ、本を読まないことのおそろしさを思わざるをえない。

テレビや小型計算機の普及が、途中の論理を抜きにした結論オンリーの短絡的思考を抜けているといわれるが、これが普通の人間の思考力を弱めるであろうことはまず間違いがない。機械文明とはこうした人間疎外をもたらすものであるかもしれないが、そうであればあるだけ、読書の必要は強調されなければならない。読書こそは、論理をたどって結論にいたる思考作業なのであり、またそれにもまして、著者の人格とのじかの対話なのだから。

「世界主要国の国立図書館の蔵書目録揃う」

米国議会図書館、大英博物館、フランス国立図書館

司書 今永 義純

最近の情報量の増大は、“情報の爆発 Information Explosion”といった言葉までとびだすほどで、どんな図書館、情報センターと言えどもそれ一機関のみではすべての情報を網羅することができなくなってきました。また学問、研究の急激な進歩で分野によっては必要とする文献が国内には見当らず、外国にその文献を依頼することが年々、当大学においても増えてきました。

その場合研究者から依頼される文献について著者、書名、誌名等、書誌的事項に誤りがないかどうかを調査するツール、そのとき外国のどの図書館にどんな文献があるかという蔵書目録が必要となってきました。そうしないと文献複写を依頼される図書館においては、その図書館にはあるだろうという推測のもとに依頼を受け、書誌的事項の不備とともに最も手数をわずらわせることになるからです。

そういう意味で今度アメリカ議会図書館の National Union Catalog、イギリスの大英博物館蔵書目録、フランスの国立図書館の蔵書目録を当館に購入しましたので、文献の調査、所蔵の確認のツールに役立つものと思われれます。もし必要とする文献が国内にはなく、これらの図書館の蔵書目録中に発見されたときはお申しつけ下さい。複写（ゼロックス、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等）にて取り寄せますので。

それではこれらの蔵書目録の内容を簡単に説明いたします。

(1) アメリカ議会図書館 (Library of Congress) の総合目録 National Union Catalog

この目録は、当初は LC の所蔵目録だけでしたが、1956 年以降は北アメリカの 750 以上の図書館から報告された単行書の記入を含むことになり、現在では世界中に 12 の海外事務所を設けて世界のその地域の学術書を収集して目録カードとともに LC に送っています。日本にもこの事務所が東京にあり、日本出版貿易がこの業務を行っています。

現在出版されているのは

The National Union Catalog, pre-1956 imprints
〃 1956—1967. 125 vols
〃 1968—1972. 108 vols
当館には 1956—1972 まで入っています。1956 年以前の

ものについても予算の目途がつき次第購入する予定です。

(2) イギリス 大英博物館 British Museum の蔵書目録

納本に基礎をおく図書館なので、図書の亡失をおそれながら総合目録のうちに入っていないために、国立図書館でありながら総合目録のうちに入っていない。しかしこの蔵書目録は 400 万以上の記入を含み、LC の目録にはないものも発見され、世界最大の目録と言われています。イギリスのみならず、ドイツ、フランス等西欧の古い文献も多く目につきます。

British Museum : General catalog of printed books to 1970. (Compact ed.)

(3) フランス フランス国立図書館 Bibliothèque Nationale の蔵書目録

フランス国立図書館は納本に基礎をおく図書館なので、その蔵書目録は、フランス出版の図書について調査する基礎となるものです。

Bibliothèque Nationale : Catalogue général des livres imprimés de la Bibliothèque Nationale; Auteurs. Paris, Imprimerie Nationale, 1897—1973 全 218 巻

収録の年度は巻によって異なります。出版の時期現在になっており、著者名目録ではありますが、個人著者のみを含んでいます。

以上 3 点とも 3 階の参考図書室に備付けていますのでご利用下さい。

その他逐次刊行物の総合目録として、アメリカの Union List of Serials in Libraries of the United States and Canada. Vols. 1—5 (世界各国で刊行された雑誌の書誌的事項及び、米国、カナダの図書館の所蔵が記されている)、イギリスの British Union-Catalogue of Periodicals, 1955—1968, Vols. 1—6

(英国内 440 の図書館が所蔵する 17C から今日までに刊行された雑誌が収録されている) が当館に所蔵されています。

アメリカ、イギリス、フランス出版の図書についての調査はこれらでカバーできるといいますので、あとドイツ出版の調査ツール、蔵書目録を備付けたいと思っています。

" *Man's Unconquerable Mind* " - Wm. Wordsworth -

交換教授

Ann Miller



"If I were not a king, I would be a university man; and if it were so that I must be a prisoner, if I might have my wish, I would desire to have no other prison than that library." [Oxford's Bodleian Library] —James I

Not many men have access to the vast resources of the great Bodleian Library, but those of us in the university community can avail ourselves of those collections of books which one scholar has termed "the diary of the human race."

When I was quite young, my father died, leaving my schoolteacher mother with five children to support. Although we were very poor, she gave us a rich gift: she made certain that her children were surrounded with books. Each Saturday morning, I rode the bus downtown to the Dallas Public Library. There on the shelves, all for my taking, world after world opened itself to me; and gradually, by those tales of myth and legend and history on which our childhood is fed, the world of my imagination was stirred. I attribute to those formative years of reading at my own pleasure much of my own love for literature.

Then, later, as a university student, I had a distinguished professor whose lectures sent me each day, warm with curiosity, to the library in search of his allusions to authors and places and events. He taught me the value of books, the freedom to be gained by knowledge. And he reminded us constantly that we needed to spend most of our college years in the library.

There are, as Voltaire astutely commented, "a multitude of useless books." But it was also Voltaire who said, "Books govern the world, or at any rate, all nations which possess the faculty of writing." And good students, the world over, know the value of using the library. Here, at Seinan, I see them wandering through the stacks, looking for the books that will speak to their needs; I observe them listening to records of the voices of poets and politicians and historians; I watch them leafing through the works of the great painters and sculptors. They are searching through the building that is the heart of the university—the library.

We do not live in Athens, but we can know Sophocles, Aristotle, Plato; we do not reside in Italy, but we can experience Dante and Michaelangelo. The library opens the doors of Shakespeare's England, of Goethe's Germany, of Ghandi's India, of Hiroshige's Japan.

Basho, in The Narrow Road of Oku, when he stood facing some ancient monument, was moved to observe, "I felt as if I were looking into the minds of the men of old. This, I thought, is one of the pleasures of living." Basho was right. And it is the Library which opens to us "Man's Unconquerable Mind"—ancient and modern— which affords both pleasure and wisdom.

先生はベイラー大学から来校され、政治学を御担当の御主人 (Robert T. Miller 先生) と共にアメリカ・イギリス現代詩を講義しておられます。

☆ NEWS・お知らせ ☆

<研修・出張>

49年度大学図書館職員講習会 49.10.22~25

(文部省主催)〔於：大阪大学〕 榎司書出席

49年度私大図書館協会九州地区協議会並びに研究会

49.11.1〔於：鹿児島経済大学〕 荒川司書出席

第6回国連寄託図書館会議 49.11.5・6〔於：はか
た会館(当番・九州国連寄託図書館)〕 木村館長、
大内教授、刀根司書長、杉本課長補佐、今永係長、
榎司書、石橋出席

49年度全国図書館大会(大学図書館部会) 49.11.6~

8〔於：一橋大学〕 木村館長出席

福岡県 佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会

49.12.17〔於：当館〕 テーマは「外国図書館報告」
として本学の唐木田、川上(宏二郎)、西島3教授
による外国図書館事情の報告が行われた。出席者は
福岡地区大学図書館15館の職員、約50名。

<図書館委員会> 49.10.31

(議題)

①50年度図書館予算について

②新聞雑誌費予算について

③雑誌の貸出について

<積層書架工事延期>

50年度と52年度の2期に分けて書庫内装及び積層書架
の取り付け工事を行う予定でしたが事情により51年度に
一括して着工することになりました。

<増加図書目録>

第2号(9月~11月分)が発行され、前号とともに2
階に常備しております。

<未来の地図表寄贈さる>

卒業生より『九州圏総合開発計画図』『福岡都市計画
総括図』が寄贈されました。1階新聞閲覧台横に掲示し
ております。

卒業生の図書館利用について

本学の卒業生は、図書館を卒業後も利用することが出
来ます。めまぐるしくうつり変っていく世相のためか、
利用者が増加しています。

利用手続

○希望者は、特別利用規則により、下記のものを提出
して下さい。

①特別利用許可願(本館備付) 1通

②卒業証明書 1通

③上半身名刺型写真 1葉

④印鑑

⑤手続料金(1ヶ月) 100円

手続が完了すると、特別利用者証を交付します。入館、

貸出等の手続は在学中と変わりませんが、貸出2冊、期間
は11日間以内です。どうか、今後とも御活用ください。

告知板

○春休長期貸出

1月31日(金)から実施。冊数は3冊以内。期限
は、卒業予定者は2月末日まで、それ以外の人は
4月26日(土)まで。

○春休中の開館予定

2月8日(土)から4月15日(火)までの期間、
午前9時から午後5時まで(土曜日は12時まで)
開架閲覧室を開き、学習室は閉室します。ただし
・2月14~18日は入学試験のため閉館。
・3月10(月)~15日(土)は在庫調査のため、
開架閲覧室を閉室、その間学習室を開きます。

<利用者の声>

「2、3、4階の開架閲覧室の利用時間を1時間でも
よいので、延長してほしい。6時では早いように思われ
る」との投書が3件寄せられました。学生諸君の自学自
習の場所として、大学図書館は、よりよい勉学の環境を
整え、諸君の要望にこたえることは、大学図書館の存在
理由と、その目的・使命からして必要であり、私達図書
館に勤務する者として出来るだけ努力してゆくつもりで
す。ただ、この開館時間の延長については、単に図書館
自体の問題にとどまらず、大学職員の労働条件・予算等
の問題もあり、諸君の希望どおりにいかない実情にあり
ます。なお、ご参考までに申し上げますと、九州地区大
学図書館の開館時間は、下記のとおりです。

開館時間(月~金)

国立11校中 9時~17時 5校

公立8 " " " 6校

私立14 " 9時~16時30分 2校

9時~17時 6校

〔西南9時~18時 (2、3、4階)
8時45分~19時 (1階)〕現状においては、当館の開館時間は決して短くはな
く、寧ろ平均以上の長い時間であります。しかし、大学
の教育・研究の心臓ともいべき大学図書館の使命にか
んがみ、出来るだけ利用しやすい態勢を整えるため、現
在開館時間の延長について鋭意検討を進めています。

(司書長)

<人 事>

退職 50.1.31付 石橋廣子氏

<あとがき>

Y.M.氏から編集をバトン・タッチしました。今回は
特に卒業生のはなむけとして馬場先生、Ann・Miller
先生に書いていただき感謝いたします。(Y.F.)